

2024（令和6）年度
学校推薦型選抜(指定校B／実績評価型)入学試験問題
小論文
(時間 60分)

資料1は、新型コロナウイルス感染拡大前の「観光産業における従業員一人あたりの利益額（儲け）の国際比較」、資料2は、新型コロナウイルス感染拡大前（2019年以前）と拡大直後（2020年）の「日本の経済規模（GDP）および日本の経済規模に占める観光産業の割合」を示している。これらの資料から読み取れることを書きなさい。

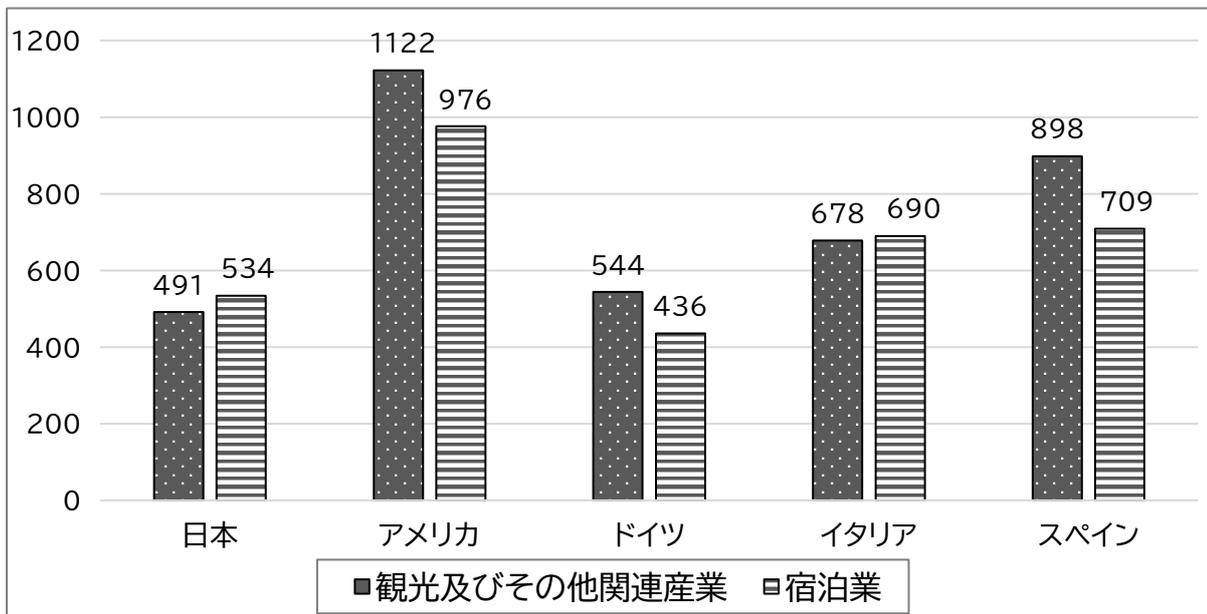
次に、日本の観光産業の発展のために、必要だと考えられることを自由に述べなさい。

なお、文字数は300字以上600字以内とし、記述にあたり、以下のキーワードを参考にしてよい。誤字・脱字や常用漢字の不使用は、減点の対象となるので注意しなさい。

キーワード

地域活性化（例えば、スポーツ、寺社仏閣、鉄道、交通網、歴史、食文化、音楽、特産品など）、稼げる産業への変革（稼ぐ力）、持続可能な発展、地域ブランド力の強化、マイクロツーリズム（近距離旅行）、オーバーツーリズム（観光公害）、各種税の創設（訪問税／宿泊税など）、魅力発信、SNS

資料1 観光産業における従業員一人あたりの利益額(儲け)の国際比較(2019年/単位:百万円)

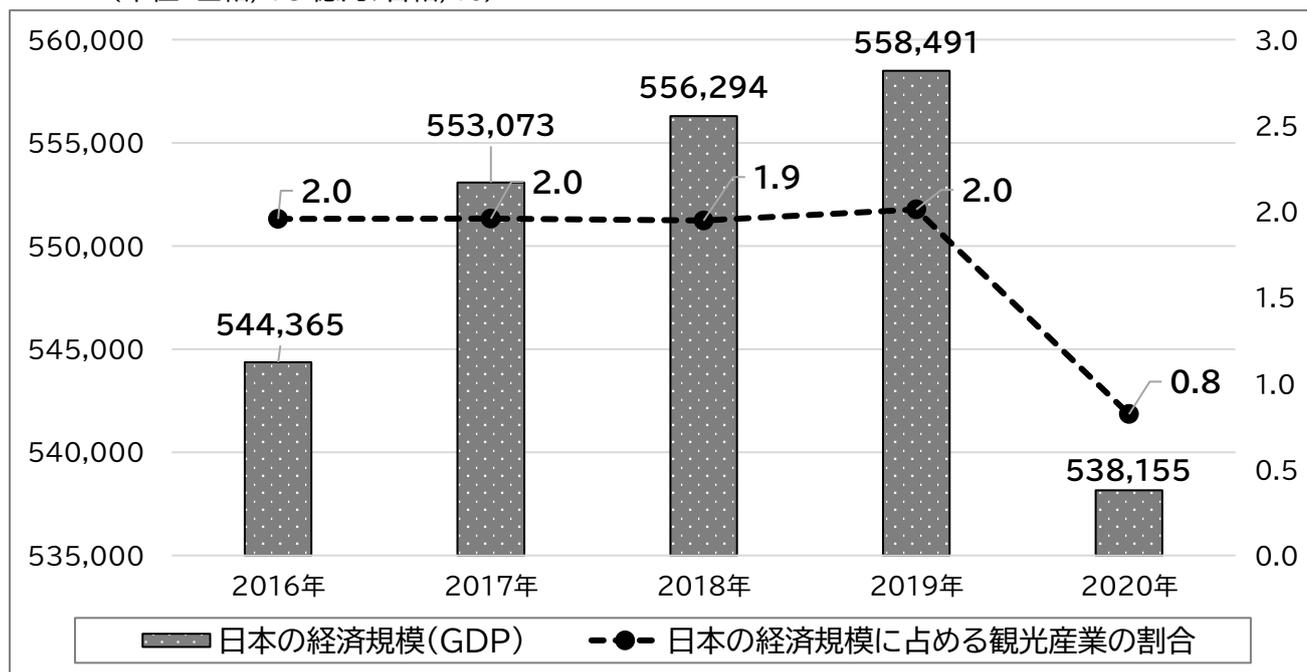


(注1) 各国数値は2019年(令和元年)の平均為替レートで円換算されている。

(注2) 観光産業には、観光(飲食業、各種輸送、スポーツ・娯楽業)、宿泊業、その他関連産業が含まれる。

資料 2 日本の経済規模(GDP)および日本の経済規模に占める観光産業の割合の推移

(単位:左軸, 10 億円;右軸, %)



(注 1) GDP (国内総生産) とは、一定期間内のサービス・商品などの販売価額から、原材料や経費などを差し引いた利益額 (儲け) の合計額を指す。

(出典) 資料 1 と資料 2 の作成には、『観光白書 (令和 5 年版)』37 頁の図表 I - 51・52、40 頁の図表 I - 57 並びに『令和 5 年版観光白書について (概要版)』13 頁を引用した。当該統計資料は、内閣府「2020 年度 (令和 2 年度) 国民経済計算年次推計」、観光庁「旅行・観光サテライト勘定」(TSA: Tourism Satellite Account) に基づき観光庁が作成したものである。ただし、2010 年から 2017 年の観光 GDP は観光庁推計。